



キャンパスアジア・プログラム よくあるご質問 (FAQ)

2016年3月10日版

1) 願書は英語ですか？日本語ですか？

願書は日本語です。ただし、「Statement of Purpose」は英語で、「研究計画／Research Plan」は日本語もしくは英語で作成してください。

なお、選抜後、留学先大学の入学手続きにおいては、英語で必要書類を作成（もしくはオンラインで入力）することになります。

2) 「Statement of Purpose」を英語で作成する理由は何ですか？また、「研究計画／Research Plan」をどちらの言語で書くかという点は合否に影響しますか？

英文の「Statement of Purpose」は、留学先大学の入学手続きにおいても求められるもので、留学希望者にとってはいずれ必要となるものです。また、「研究計画／Research Plan」については、選抜後、実際に留学するまでに、様々な調査や検討を経て修正していくことが想定されていますので、出願時点では書きやすい言語で書いてもらってかまいません。その際の言語の選択が合否に影響することはありません。

3) 語学能力はどのように審査されますか？

英語の語学能力証明書を添付してください。原則として、TOEFL・IELTSなどを事前に受験し、その成績証明書（コピー）を提出してください。どうしても間に合わない場合は、それに代えて卒業された大学の学部成績証明書（和文もしくは英文）もしくは前年度の成績証明書（M2以上の学生の場合のみ）を提出してください。

なお、語学能力の審査のため、面接の一部を英語で行なうこともあります。

4) 英語のスコアの基準はありますか？

選考時に英語のスコアのみで合否を判定することはありません。

参考までに、本プログラムの基準ではありませんが、復旦大学の正規学生が英語コースを履修する場合、TOEFL (iBT) 90以上、IELTS6.5以上が必要とされているとのことです。

5) 外国人学生でも応募できますか？

本学では特に国籍は限定していません。

ただし、受け入れ先の大学は、本学とは異なる独自の受け入れ基準を設けている場合があります。外国籍の方が本プログラムへの参加を希望される場合には、必ず事前にご相談ください。

6) 国際協力研究科 (GSICS) 以外の学生なのですが、ダブルディグリーは取れますか？

現在の協定上、本学と留学先の大学とでダブルディグリーを取得できるのは、GSICSの学生に



限られます。GSICS 以外の研究科に所属する学生は、交換留学での派遣についてのみ、出願することができます。

7) **ダブルディグリー・プログラムでの応募を検討しています。春と秋のいずれでも応募できますか？**

受け入れ先の大学の新学期は、9月開始となります。したがって、ダブルディグリー・プログラムでの派遣を希望される場合、原則としては春募集（2016年度は4月18日出願締切）に出願→9月から派遣、というパターンに限定されることになります。

ただし、高麗大学校においては、3月派遣の学生についてもダブルディグリー・プログラムでの受け入れが可能となっています。このパターンでの留学を希望される場合には、必ず事前にご相談ください。

8) **費用負担はどの程度必要ですか？**

両大学とも、受験料・入学金・学費等は免除されます。

これに加えて、派遣先大学もしくは JASSO（学生支援機構）から奨学金が支給されます。ただし、生活費等の面におけるある程度の自己負担は、必要になると思われます。

9) **保険などはどうなりますか？**

現地の健康保険等については、個人の負担において、海外旅行傷害保険もしくは派遣先大学の提供する保険に加入してください。なお、派遣学生のみなさんには本学の「留学生危機管理制度（OSSMA）に基づく海外渡航」（各研究科学生便覧等を参照のこと）が適用されます。

10) **取得必要単位は何単位ですか？何単位まで神戸大学への単位交換が認められるのですか？高麗大学校と復旦大学それぞれの場合ではどうなりますか？**

GSICS の学生の場合、修了必要単位数は 30 単位ですが、学生便覧に示されている通り、他専攻・他研究科、他大学（外国の大学を含む）の科目の修了要件単位数算入上限は、全合計で 12 単位になります。このうち、高麗大学校もしくは復旦大学で取得した単位については、ダブルディグリー・プログラムの場合は合計 10 単位まで、交換留学の場合は合計 8 単位まで認められています。

他研究科の所属の場合は、それぞれの学生便覧を参照し、各研究科の教務係で相談してください。

なお、神戸大学と派遣先大学とにおける必要単位取得プランのモデルについては、[別添 pdf ファイル](#)を参照ください。

11) **プログラム終了後、滞在期間を延長することはできますか？**

できません。期間延長をしたい場合であっても、いったん帰国する必要があります。



1 2) ダブルディグリー・プログラムで派遣されて、1年で単位が取り終えられなかった場合、どうすればよいのですか？

基本的には、期間内で必要単位を取り終えるよう、まず最善を尽くしてください。

仮に単位を取り終えられなかった場合でも、当初の派遣期間終了後はいったん帰国してください。その後、残りの必要単位の取得を派遣先大学で目指す場合には、自己負担で勉学を継続していただくことになります。

(なお、その場合でも、当プログラムで派遣されていた期間の奨学金等の返還を求められることはありません。)

1 3) 神戸大学で選抜された後に、受け入れ先の大学に受け入れを断られる場合がありますか？

原則としてはありません。双方の大学間の信頼関係に基づいて、こちら側の選考結果を受け入れ大学は尊重することになっています。

ただし、受け入れの最終的な決定はあくまでも先方の大学が行ないますので、合格発表後に何らかの問題が生じたことによって派遣が見送られる可能性は、ゼロではありません。この点については、どうぞご了解ください。

1 4) 韓国語や中国語の授業を派遣先で履修することはできますか？

可能です。ただし、修了要件単位にはなりません。

なお、両大学院には韓国語／中国語の語学の授業も設置されていますが、そうしたものを除けば、高麗大学校国際大学院の授業は原則的にすべて英語で行なわれていますし、復旦大学国際関係・公共事務学院で派遣学生が所属することになるプログラムでも、授業はすべて英語で行なわれます。

1 5) プログラムに参加したことの証明書はもらえますか？

本プログラムに参加し、所定の単位を取得して留学生生活を修了した学生には、そのことを認定するプログラム修了証明書(サーティフィケート)が授与されます。

1 6) 派遣にあたって神戸大学で履修しなければならない科目などはありますか？

上記1 6)のサーティフィケートの授与要件として、2012年度秋学期から、キャンパスアジア・プログラムの修了要件となる「リスクマネジメント関連科目」の指定を受けた講義が、国際協力研究科で開講されています。2016年度以降の指定科目については、国際化加速推進室〔キャンパスアジア担当〕にお問い合わせください。

なお、必須ではありませんが、英語で行なわれている本学の授業を留学前にあらかじめ履修しておくことを推奨してします。

1 7) 1年間の留学を考えているのですが、どのような点に留意すればいいですか？

まず、二つの大学での学位取得を目指すダブルディグリー・プログラムで留学するのか、留学先



で講義を履修して単位を取得すること（のみ）を目指す交換留学で留学するのを選択する必要があります。

ダブルディグリー・プログラムで派遣される場合、留学期間は自動的に1年間となります。

交換留学で応募する場合には、願書において留学期間（半年もしくは1年）を選択する必要があります。そこで選択された期間を派遣後に現地で延長することは認められていない点、注意が必要です。

なお、交換留学で留学する場合にも、復旦大学では1セメスターあたり最低10単位以上、高麗大学校では最低9単位以上の講義の履修が求められることになっています。

18) 復旦大学と高麗大学校の両方のプログラムに参加することはできますか？

復旦大学・高麗大学校においてそれぞれ交換留学（半年）を行なう形であれば可能です。ただし、現在のところ、初めから二つのプログラムに出願することは認められていません。一つの交換留学プログラム（半年）を修了した上で、改めて出願して選考を受ける必要があります。

19) ダブルディグリーを取得する場合、派遣先の大学で執筆する修士論文は、その大学の修了要件単位に算入されますか？

留学先の両大学とも、修士論文そのものは修了要件単位とはなっていません。

以上